ISSN 2186-5647



7-4

# 日本キリスト教の韓国民主化運動支援

東京外国語大学海外事情研究所
特別研究員 趙基銀[1]

## 1. はじめ

1970～80 年代の韓国では、学生を中心に民主化運動が激しく行われた。当時、日本を中心とする世界で韓国民主化運動を支持・支援する運動が行われた。特に、日本は韓国から地理的に近いため韓国の政治的・社会的状況や民主化運動に関する情報が集まりやすかったこと、在日朝鮮人や日本滞在の韓国人の民主化運動が行われたこと、そして日本人が中心になった「在日韓国人政治犯」や金大中救援運動も盛んに行われたこともあって世界における韓国民主化運動支持・支援運動の拠点となった。日本における運動は、キリスト者や知識人が中心となった日本人運動勢力と韓国人・在日朝鮮人と連帯した形で行われた。これを日韓連帯運動という。その代表的なものが在日朝鮮人政治犯と金大中救援運動、雑誌『世界』の「韓国からの通信」である。これまでの日韓連帯運動に関する研究は、当事者の回顧録、金大中救援運動[1]、キリスト者の日韓連帯運動をメディアという視点で述べた[2]などがある。

ここでは日韓連帯の一つの流れであるキリスト者の運動についてみる。キリスト者の運動は、プロテスタントとカトリック教の両教団に分かれ、それぞれの教団の支持の下で運動が行われた。

両教団は連帯し「韓国問題キリスト者緊急会議」を開催し、また他の運動グループとも連帯し韓国民主化運動を支持・支援、世論形成、政治犯救援運動を行った。

## 2. 日本キリスト者の韓国民主化運動支持・支援運動の背景

日韓のキリスト教の関係は、歴史的に友好な関係ではなかった。植民地支配においてイデオロギーを重要視した総督府は天皇崇拝や神社参拝を強要した。当時の朝鮮キリスト教は、神社参拝を民族抑圧と受け止め、戦後も反日的な立場に立っていた。

このような雰囲気が変わったのが 60 年代である。プロテスタントは 67 年 3 月に「第 2 次大戦下における日本基督教団の戦争責任の告白」（戦責告白）を発表し韓国キリスト教団と和解した。このような動きは、70 年の靖国神社の国営化を反対する連帯運動へとつながった[3]。一方、カトリック教は 67 年 1 月に貧困などの問題を抱えている国を援助するためにパオロ 6 世の下で「教皇庁正義と平和委員会」が発足したことを受け、70 年「正義と平和司教委員会」が発足し貧困や人権問題に積極的に取り込んだ。

韓国問題において、プロテスタントの方は政治犯救援運動に参加した牧師により早くから活動があったが、73 年の金大中拉致事件がキリスト教およびキリスト者が本格的に韓国民主化運動を支持・支援する契機となった。

## 3. 韓国民主化運動支持・支援運動の経緯

プロテスタントの方は、牧師などが中心となった在日朝鮮人の政治犯を救援する運動が 71 年から

---

Japanese Christianity's support for the Korean Democratization Movement in Japan

Kieun CHO

行われた。それが 73 年 8 月の金大中拉致事件を契機に韓国民主化運動に共鳴する人々が増え、政治犯救援運動や韓国民主化運動支援運動へと発展した。プロテスタントでは、73 年初めにNCC（日本キリスト教協議会）の総幹事である中島正昭や東海林勉が 73 年 2 月の段階で金大中と交流し[4]、そして同年 5 月に韓国人キリスト者による「1973 年韓国キリスト者宣言」の発表を受け連帯の土台が出来上がっていた。それが日本で活動していた呉在植、池明観が中心になって活動していた「韓国キリスト者民主同志会」（民主同志会）の運動を後方で支えながらの運動を行った。その結果の一つが「韓国からの通信」である。この民主同志会は韓国の教団ともつながっていたので、韓国の「基督教教会協議会」が収集した民主化運動資料が民主同志会の呉を通じて雑誌『世界』をはじめ多くのキリスト教団体に伝わった。

カトリックでは、金大中拉致を受け同年 12 月に「社会正義を求めるカトリック有志の会」（カトリック有志の会）を結成し[5]、同月 30 日にカトリック有志の会が開催した「神の正義と隣人愛を考える」という集会が開催された。この集会では韓国の池学淳司教の日本カトリック教界へのメッセージが朗読され、また韓国カトリック信者が韓国民主化運動を支援すること、境界が金大中の自由を促す活動をすることを決めた決議文が発表された[6]。有志の会の結成と集会により日韓カトリックの連帯の土台が作られたと言える。三好千春は 74 年 7 月の池学淳主教の逮捕を受け、正義と平和協議会が韓国カトリック教会への支持を表明したと述べているが[7]、73 年の集会から支持・支援の動きは始まったといえる。そして、「正義と平和司教委員会」は 74 年日本カトリック正義と平和協議会」（正平協）へと組織を改編し、人権、平和、社会問題などに関する活動を行った[8]。この組織には相場信夫司教、武者小路公秀秘書などが活動した。

このようなカトリックの運動には、有志の会の宋栄淳の役割が大きく効した。宋栄淳は韓国のカトリック教会が収集した資料を翻訳し運動関係の雑誌などに載せるか、関連団体に情報を提供した。宋栄淳はカトリック信者であり、「金大中救出委員会」の委員長・韓民統のメンバーであった金載華とつながり、これが後に韓民統が韓国の運動勢力とつながるルーツとなった。また、84 年の資料を見ると宋栄淳は正平協の韓国委員会に属しており、日本カトリック教会において韓国民主化をはじめとする韓国問題がどのような比重を占めているのかがうかがえる[9]。

以上から分かることは、日本キリスト教の日韓連帯運動は、プロテスタント系の民主同志会とカトリック系の宋栄淳を中心にした二つの流れがあったこと、そして韓国関連資料や情報はこれらの二つのルーツを通じて日本に伝わったということである。日本に伝わった資料がどのような運動団体に伝わったかに関しては詳細な内容が知られていないが、大まかに民主同志会の資料は雑誌『世界』を中心に流れ、宋栄淳のルーツはカトリック関係の団体や雑誌などに伝わったと思われる。このような動きは、日本における運動系列とも深くかかわっている。例えば、民主同志会は反共主義的な立場が強い秘密組織であったため在日朝鮮人団体の「韓国民主回復統一促進国民会議」（韓民統）とは活動を共にしないで、主にNCC の人を中心としたプロテスタント系との関係を中心に活動した。しかし、宋栄淳の方は韓国民主化運動家であり、韓国カトリック系新聞である『平和新聞』の編集長であった金正男とつながっており、また日本の韓民統の中心人物である裵東湖とつながっていた。これは、金正男と裵東湖と「連帯」へと発展したいた。韓民統は宋栄淳を通じて韓国の運動勢力との連帯を試みたのである[10]。また、韓国の趙英來により書かれた『全泰壹評伝』がこのルーツを通じて日本の韓民統に伝わり映画化され、日本の日韓連帯委員会や総評などが参加する上映運動へとつながった[11]。

4. 日本キリスト教の運動における連帯

キリスト教の日韓連帯においては二つの大きな流れに分かれるが、日本における運動においてはプロテスタントとカトリック教が協力し合って運動を展開していた。74 年1月に NCC の相川高明議長とカトリックの白柳誠一主教をはじめに新旧教会の 84 人が呼びかけ人となって『韓国問題キリスト者緊急会議』(キリスト者緊急会議)が結成され情報センターのような役割を果たした。また、結成日は韓国民主化運動を支援する集会も開かれた[12]。そして、同年 9 月に「日韓キリスト者連絡協議会」(連絡協議会)が結成され、のちに緊急会議も連絡協議会に加わって活動に参加した[13]。連絡協議会は日本カトリック、川崎教会の牧師である李仁夏牧師、無協会の指導者などが加わる宗教を超えた活動を行った。

日本キリスト教は海外の運動勢力とも連帯した。80 年光州民主化運動の首謀者として金大中が逮捕され、死刑判決を受けた際に NCC と正平協は「金大中氏の生命を憂慮する緊急国際会議」を共催した。この緊急国際会議において金大中の救命と自由回復を訴えるとともに、声明などを発表した。また、非カトリック系の運動団体との連帯の形での運動も盛んに行われた。正平協や緊急会議は韓国の情勢分析などにおいて日韓連連の助力を受けながら[14]、韓民統、日本労働組合総評議会、日韓連帯連絡会議などの団体との連帯により日本における韓国民主化運動は日本において市民権を得ることができた。

日韓連帯運動の参加者は、韓国民主化運動への参加を契機に植民地支配問題や戦争責任、日韓の経済問題を意識するようになるが、日本キリスト教も例外ではない。カトリック教会の場合はは韓国民主化運動－在日朝鮮人問題－日韓歴史問題へとつながる認識に変化を見せるようになり、その結果 95 年に戦争責任を告白するに至った。

5. 終わりに

日本キリスト教は 70 年代の金大中拉致事件を契機に韓国民主化運動を支持・支援する運動を行った。このような運動は、単なる日本キリスト教内部の運動に終わらず、韓国のキリスト教や在日朝鮮人運動勢力、日本の非キリスト教運動団体と連帯した形で拡大された。このような運動は、韓国民主化運動への支持・支援に終わらず、日本の在日朝鮮人問題や日韓歴史問題を是正しようとする動きへと発展した。

日本キリスト教の韓国民主化運動支援運動は、70～80 年代の韓国キリスト教団体や信者を支えたのみならず、日本における戦争責任をはじめとする日韓歴史問題、在日朝鮮人問題などにおける連帯へとつながった。

参考文献


1 鄭根珠「韓国民主化支援運動と日韓関係－「金大中内乱陰謀事件」と日本における救命運動を中心に」『アジア太平洋討究』No.20、早稲田大學アジア太平洋研究センター、2013 年 2 月。

2 李美淑『「日韓連帯運動」の時代』、東京大学出版会、2018 年。

3 東海林勉「キリスト者の連帯運動」『金大中と日韓関係－民主主義と平和の日韓現代史』、延世大学金大中図書館、2013 年、142 頁。

4 同上、143 頁。

5 三好千春「日本カトリック教会の歴史認識－記憶の連帯を目指して」『神学と哲学』第 36 号、西江大学校神学研究所、88 頁。

6 「隣人愛を示そう－韓国問題で若い信徒奮起」『カトリック新聞』、1974 年 1 月 20 日付、1 面。

7 三好千春「日本カトリック教会の歴史認識－記憶の連帯を目指して」、89 頁。

[8] 日本カトリック正義と平和協議会『「正義と平和」の 25 年』、日本カトリック正義と平和協議会、1995 年、23 頁。

[9] 同上、83 頁。

[10] 趙基銀「韓民統の韓国民主化運動－1970～80 年代を中心に」『東方学志』第 194 集、延世大学校国学研究院、2021 年 3 月、323～325 頁。

[11] 同上、323 頁。

[12] 東海林勉「キリスト者の連帯運動」、前掲、145 頁。

[13] 同然、148 頁。

[14] 同然。